

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

1月のGR I（海上運賃一斉値上げ）は多くの船社が回避しています。2月1日付でのGR Iの通知を出しているところもありますが、当面値上げは実施しないことを表明している船社も出てきています。今後、各船社は経営状況を勘案しながら、取扱貨物や積み出し港により、運賃の値上げの必要性を判断していくものと思われます。引き続き各船社の動向には注視が必要です。

ビートパルプ

<米国産>

現在順調に製糖作業およびビートパルプの生産が行われています。昨年11月の時点では、温暖な天候により保管中のビート大根の品質維持に若干懸念があるとみられていましたが、その後は例年並みの寒さとなり、現時点では原料大根の保管状況に大きな懸念はなさそうです。

今年度産のビートパルプの生産量は一部地域で想定以上に単収が落ちたことにより下方修正されています。日本向けの供給量には影響はありませんが、生産減の影響が全体の需給を引き締める結果となり、産地在庫はほぼ契約済みとなっているようです。

新穀の作付けはアイダホ州やミシガン州などの早い地域で3月末、日本向け主産地であるミネソタ州やノースダコタ州では4月中旬頃からスタートします。作付面積については現在のところ、大きな変動をもたらす要因は見当たりません。

アルファルファ

ワシントン州

産地在庫については、輸出向けおよび米国内酪農家から高成分の上級品に対する需要が引き続き堅調であり、これらの品質についてはほぼ成約済みとなっています。中～低級品については、一部の生産農家では在庫を抱えているようです。産地価格に大きな変化はなく堅調に推移しています。

また、現地では降雪が多い時期に入ってきており、原料の搬入や港までの輸送などに遅延が起りやすくなっています。

オレゴン州

南部クラマスフォールズ、中部クリスマスバレーの両地区とも前月から産地情勢に大きな変化はありません。高成分の上級品に対する米国内酪農家からの引き合いは引き続き強く、産地価格は高値のまま堅調に推移しています。

カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは12月上旬で17年産の生産が終了し、2月中旬頃から始まる新穀の収穫準備が進んでいます。17年産は総じて、例年に比べ高成分の上級品の発生は少なく中級品以下が多い傾向となりました。中国向けの需要については、産地価格の上昇と乳価の下落によりやや低調ではあるものの、中東及び米国内酪農家からの需要は旺盛です。産地相場は9月に一旦軟化しかけたものの、10月以降は強含んだままで推移しています。米国内需要は酪農家からだけでなく、肥育農家からの引き合いも旺盛なことから、産地在庫は上級品から低級品まで例年よりも少ない状況となっております。

2017年

米国産 アルファルファ(ALFALFA HAY) 輸出量 (1-10月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
日本	46,098	46,672	52,540	52,434	53,693	46,191	39,536	38,201	43,489	45,093	463,947
韓国	16,151	15,249	20,924	19,461	20,203	14,546	11,379	14,287	13,610	17,734	163,544
UAE	28,598	20,837	29,170	34,084	36,037	22,692	16,158	15,421	12,419	14,052	229,468
台湾	3,711	4,159	4,230	5,092	5,530	6,590	4,690	4,919	5,151	4,445	48,517
中国	73,225	109,541	121,371	122,612	116,679	109,210	84,384	93,816	79,085	75,033	984,956
ベトナム	963	114	340	283	585	581	129	429	46	0	3,470
サウジ	17,860	18,574	36,165	29,214	31,086	32,753	23,236	31,900	41,841	30,575	293,204
カナダ	2,988	3,045	4,723	3,779	4,001	3,632	3,598	4,135	2,681	3,291	35,873
インドネシア	542	786	98	170	0	310	412	416	464	546	3,744
マレーシア	312	476	49	155	64	119	67	154	122	194	1,712
その他	1,969	2,307	1,564	1,496	756	656	629	389	535	1,589	11,890
計	192,417	221,760	271,174	268,780	268,634	237,280	184,218	204,067	199,443	192,552	2,240,325

USDA アルファルファヘイ 国別輸出量 2017年1月-10月

USDA（米国農務省）発表の乾牧草輸出統計によると、2017年の米国から各国へのアルファルファ輸出量は2016年と同様に10月末時点ですでに200万トンを超えています。日本向けの輸出量は10月末時点で約46万トンと、中国に次いで2位ですが、前年の同期比では6万トン程輸出量が増えています。日本向け以上に輸出量が増えているのがサウジアラビアで、前年に比べ11万トンも輸出量が増えています。サウジアラビアは自国内での自給粗飼料生産の中止を検討していることから、近年では米国産をはじめとして、アルファルファの輸入量が急増しています。産地への大規模な投資も本格化しており、今後の動向に注目が集まります。

米国産チモシー

米国産チモシーの需要は日本および韓国から旺盛な状況が続いています。このため、産地相場は強含んだまま堅調に推移しています。産地在庫は一部の低級品には余裕があるようですが、上級品は限定的と言われています。

米国産チモシーの輸入量は、新穀の輸入が始まって以降の8-11月の輸入量の合計は約11万トンで、前年同期比101%となっています。

18年産については、産地相場の高騰を背景に、作付面積は増加することが予想されています。播種時期の秋期以降の天候・気候は例年並みであり、これまでのところ新穀の生育への不安点はありません。

カナダ産チモシー

17年産は収穫期の天候に恵まれたことから、南部レスブリッジ地区および中部クシモナ地区のどちらの地区においても発生量の半数以上が上級品の発生となりました。良好な作柄と米国産チモシーの価格高騰により相対的に割安であることから、日本および韓国からの引き合いは非常に強く、産地在庫はほぼ成約済の状況となっております。

カナダ産チモシーの輸入量は、新穀の輸入が始まって以降の8-11月で約3万8,000トンと、前年同期比151%となっております。米国産チモシーと合算した輸入数量は8-11月で前年同期比110%となっており、やや輸入量過多であったことが見受けられます。

スーダングラス

今年度のスーダングラスの生産は終了しており、産地在庫は一部の低級品を除きほぼ成約済みのようです。産地価格は米国産チモシーの高騰の影響を受け、当初予想よりも上げ幅が大きくなりました。特に色抜けのプレミアム品の上げ幅大きく、低級品との価格差が例年よりも広がった年となっています。

17年産の作付面積は前年と比べ増加しましたが、18年産は競合作物である小麦の作付面積が2017年12月時点で昨年比3000エーカーほど多くなっていることから、早播きスーダンの作付面積の動向には注視していく必要があります。

日本のスーダングラス輸入量は2017年1~11月で前年比103%となっています。米国産チモシーの高騰や天候に恵まれた収穫期前半に比較的良品が多く収穫されたことによるものと考えられます。年間の累計でも5年ぶりに前年数量を超えることが予想されますが、豪州産オーツの新穀の価格・品質によって需要が変動する可能性はあります。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

17年産の生産量は作付面積の減少の影響で前年に比べ25－30%減少したと推測されています。生産量の減少により、ほとんどの良品は既に成約済となっており、品質がやや劣るものについても韓国向け中心に出荷は順調で、産地在庫はほぼ残っていない状況です。

一方で、17年産の価格が生産農家にとって魅力的であったことや依然として堅調な引き合いを背景に12月時点の作付面積は前年同期比で27%増加しており、18年産の作付面積は16年産並みに回復する公算が強くなっています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

17年産については、作付面積、単収が減少していることから生産量は少なく、繰越在庫も非常に限定的だったことから、多くの生産農家が売り時を探って未だに在庫を抱えている状況です。年明けから徐々に商いが広がっているようですが、今後も注意深く情報を収集する必要がありそうです。また、ストロー類の輸入量が多い韓国からの需要は依然として旺盛な状況が続いています。このような状況から、産地相場は引き続き上昇を続けています。今後は韓国の需要動向と豪州産ストローの作柄や価格によって需給バランスに変化があるか注目されるところです。

豪州産オーツハイ

西豪州の収穫はほぼ終了しています。収穫期の後半には降雨を逃れた圃場では刈り遅れ品が発生しており、それらの多くは中級～低級品となりました。新穀の上級品の数量は例年よりも限られています。繰り越し在庫もあり今シーズン中の通年供給は可能と考えられます。降雨による作柄の悪化が懸念されていたウィートストローは、12月に入って降雨が少なくなったため大きな影響はありませんでした。

南豪州、東豪州も収穫作業はほぼ終了しています。新穀の多くは上級品となっており、中級品および低級品は旧穀の繰り越し在庫も合わせて供給する体制になりそうです。また当地域では12月中旬に降雨があり、ストロー類には大きな影響が出ているようです。

新穀の船積みが本格化して以降、各サプライヤーの工場ではフル稼働が続いています。特に中国向けは旧正月前の入船を目指し大量に輸出されています。このため、1月中の出港分はオーダーが入りにくい状況が続いています。

産地価格は主力の産地や取扱する各グレードの集荷数量によって、一部サプライヤーは値下げに動いているところもあり、依然として流動的な部分があります。

以上